

2008年度 TPOS 訪問記

九州大学大学院医学研究院整形外科

藤井政徳

2008年12月に行われた第19回日本小児整形外科学会において最優秀ポスター賞をいただき、TPOS-KPOS-JPOA Exchange Fellowship に選任され、2009年4月22日から28日まで台湾を訪問しましたので報告いたします。

出発前に日本小児整形外科学会国際委員会委員長の亀ヶ谷真琴先生の仲介で National Taiwan University Hospital (NTUH) の Dr. Ting-Ming Wang と Kaohsiung Medical University Hospital の Prof. Yin-Chun Tien に行程を調整していただきました。期間中、台北では NTUH の施設を見学、台南では National Cheng Kung University にて行われた TPOS meeting に参加し、高雄では Kaohsiung Medical University Hospital, Kaohsiung Veterans General Hospital の施設見学をさせていただきました。

4月22日午後、福岡国際空港から2時間20分のフライトで台湾桃園国際空港へ到着しました。空港では Dr. Ting-Ming Wang に出迎えていただき、その足で NTUH を訪問し、病院内の簡単なオリエンテーションをしていただきました(写真1)。NTUH は台湾でも歴史のある大学病院であり、その前身は、日本統治下の1895年に日本人により創立された台北病院です。その後1938年、台北帝国大学医学部に併合され台北帝大付属病院となり、第2次世界大戦後、台北大学は再び中国政府の管理下となり、現在の名称となったということです。旧病院はできるだけオリジナルの外観を残すようにこれまで何度も改装が行われ、現在も現役の病院として機能しています。また、1999年には新病院が完成しており、総ベッド数約2000床、手術室は50、1日の外来患者数は約7000人という大規模な病院です。さらに隣接して19階建ての National Taiwan Children's Hospital が昨年完成しており、大規模かつ充実した設備が印象的でした。この日は Dr. Ting-Ming Wang に台北市内を案内していただき、夕食には有名な鼎泰豊の小籠包をいただきました。

4月23日7:00より NTUH 小児整形外科部門の morning conference に参加しました(写真2)。これは担当のレジデントが学会形式で発表、質疑応答を(すべて英語で)行うもので、この日は neglected Monteggia fracture の治療経験、chronic Monteggia fracture の



写真 1. NTUH 旧病院. 訪問した際は改修作業中でした.



写真 2. Morning conference の様子



写真 3. 台北での夕食 左より Dr. Chen-Ti Wang, 筆者, 楊先生, Dr. Ting-Ming Wang



写真 4. ATT transfer 術中, 吸収性スクリューを挿入している.

概説という2つの発表があり、手術開始時間の8:00を過ぎるまで活発な質疑応答が行われました。この conference は Prof. Ken N. Kuo の提案ではじめられたとのことで、若い医師にとって、英語でのプレゼンテーション能力と疾患に関する知識を高める有用な機会であると思いました。同日予定していた Pemberton osteotomy の手術が延期となったため、この日は急遽市内観光となりました。世界4大博物館の1つである故宮博物館や、世界一の高層ビルとしてギネスブックにも記録されている台北101タワーを訪れ、また台湾独特の釣り堀でのエビ釣りも経験することができました。夕食は、Dr. Ting-Ming Wang が台湾伝統料理を予約してくれており、NTUH 股関節外科の Dr. Chen-Ti Wang, Chang-Gung Memorial Hospital 小児整形外科の楊文一先生といただきました(写真3)。

4月24日は、Dr. Ting-Ming Wang が執刀する2例の手術を見学しました。1例目は6歳女児、Tethered cord syndrome による進行性の varus and cavus foot deformity に対する split anterior tibial tendon transfer, 2例目も同様の6歳男児例に対する medial release



写真 5. Prof. Ken N. Kuo を囲んで



写真 6. TPOS meeting にて学会員の先生方と



写真 7. Kaohsiung Medical University Hospital
の外観



写真 8. 澄清湖にて, Prof. Tien
ご夫妻と

+ ATT transfer でした。NTUH の術式では ATT transfer の固定に bioabsorbable screw を用いており(写真 4), この術式の詳細や術後成績は J Pediatr Orthop B. 2009 ; 18 : 69-72 に掲載されています。昼食後、午後は Prof. Kuo の外来を見学しました(写真 5)。症例は脳性麻痺、歩行障害などの患者であり、1 人の患者を十分に時間をかけて丁寧に診察する姿が印象的でした。また、今回訪問させていただいた病院では、日本より早くカルテ・画像の電子化が導入されており、カルテ記載はすべて英語でなされていました。外来が終了した後、Prof. Kuo, Dr. Ting-Ming Wang と共に TPOS meeting が行われる台南へ新幹線で移動しました。台南駅では TPOS の President である Prof. Yin-Chun Tien に出迎えていただき、Welcome Party に参加しました。

4 月 25 日は学会会場である National Cheng Kung University へ移動し TPOS meeting



写真 9. 歩行解析センターにて、左より2人目が
Dr. Chang



写真 10. Kaohsiung Veterans General Hospital
の先生方と台湾最終日の夕食会

に参加しました。本学会は Taiwan Orthopaedic Association の春季学術集会と並行して行われました(写真6)。TPOS を構成する学会員は約 120 名であり、本学会には約 50 名の先生方が参加しておられました。また、TPOS では毎年1月に Training course を設け、小児整形外科の普及、若手医師の育成に努めているとのことでした。日本と同様、台湾においても若い医師の興味は Adult reconstruction に向きがちで、小児整形外科の普及のために様々な努力をしておられました。今回の学術集会の内容は、Prof. Kuo による National Health Research Institutes のデータベースを用いた DDH、脳性麻痺、小児骨折の国内発症率や早期診断に関する概説、Fillauer 社 CEO による装具の紹介、小児大腿骨骨幹部骨折と小児骨髄炎に関する2つのパネルディスカッション、そして一般演題から構成されていました。私は一般演題の部で、DDH における臼蓋後捻例の検討と題して、DDH 症例では臼蓋後捻例においても臼蓋前上方の過剰被覆は無く、臼蓋後方の形成不全が強いという内容の発表を行いました。学会を通じて活発な議論が印象的であり、私の演題に対しても多くの質問をいただきました。学会終了後は全員懇親会に参加した後、Prof. Tien の車で Kaohsiung Medical University へ移動(写真7)、キャンパス内のホテルに宿泊させていただきました。

4月26日は日曜日であり、Prof. Tien に高雄市内を案内していただきました。高雄市は台湾で台北に次いで2番目に大きい都市であり、市内には台湾最大の高雄港を有する美しい港町です。早朝6:00にProf. Tien に迎えに来ていただき、夫妻と風光明媚な澄清湖周辺を散歩しました(写真8)。澄清湖は中国の西湖八景をイメージして開発された人工湖で、かつての蒋介石の別荘地としても知られています。午後には高雄港を一望できる高台を訪れ、高雄の中心を流れる愛河をクルージングし、夕食には港町ならではの新鮮な海鮮料理をいただきました。Prof. Tien は翌日から POSNA 参加のためボストンへ出発される

という多忙なスケジュールのなか面倒を見ていただき、大変感謝しております。

4月27日は Kaohsiung Veterans General Hospital で小児整形外科を担当している Dr. Wei-Ning Chang を訪れました。術前 conference の後、手術室など院内を見学し、その後 Dr. Chang の外来を見学させていただきました。Dr. Chang は脳性麻痺患者の歩行解析がご専門であり、Dupont Children's Hospital で歩行解析を学んだ後帰国されました。2004年には院内に歩行解析センターを設立され、現在も精力的に研究に取り組んでおられます(写真9)。台湾最終日の夕食は脊椎外科の Dr. Chien-Jen Hsu, 足部外科の Dr. Yi-Jiun Chou, レジデントの先生方と共に広東料理をいただきました(写真10)。

今回の台湾訪問では限られた日数にもかかわらず、多くの先生方に会うことができ、大変密度の濃い毎日を送ることができました。台湾の小児整形外科は我が国と比べ歴史は浅いと思いますが、台湾の先生方の国際的な活動を見据えた臨床、研究に取り組む姿勢が印象的で、自分自身も大変刺激を受けました。最後にこのような機会を与えてくださいました国分正一理事長、坂巻豊教会長、亀ヶ谷真琴国際委員会委員長をはじめとする日本小児整形外科学会の先生方、関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。